

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600013		
法人名	社会福祉法人 双友会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護(介護予防)つつじのさと		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津字前田1187-1		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果市町村受理日	平成24年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成23年12月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が毎日安心してリラックスできる環境を第一に考えています。生活の中で役割を持って頂き、家庭的な雰囲気の中で、居心地の良い場所を提供できるよう心がけています。スタッフの意識改革にも力を入れてます。認知症介護の歴史より背景を知り、時代の移り変わりを把握、中核症状・行動心理症状において学び専門職として意識を高く持ち、ケアやケアプラン等にも反映できるようになってきていると思えます。地域の行事・イベント、清掃活動、防災意識等、地域の一員としての取り組み意識も強くなりました。利用者様へ良い刺激になるようにボランティア等を受け入れています。敬老会や運動会は家族へ呼びかけ協力して頂き時間を共有、楽しく過ごせました。認知症高齢者の方への基本的な人権・人間の尊厳を尊重することを基本に考えるように意識改革しました。居室等への訪室時やドアは基本的に閉まっている事、人権及びプライバシーに配慮、サービス意識を内側・内面からケアへ活かせるようにして頂きます。食事には特に心遣いを行い、ランチョンマット・箸置き等を用い、オルゴール調のBGMをながしながら雰囲気づくりを行って頂きます。調理でも、衛生面において頭髮等バンダナを用い、手洗いを基本に手指の消毒を行っています。今後も、地域の方と共有する時間を大切にしたいと思います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所以来、地域の期待や協力も高まり、社会資源や公的機関と連携し、入居者に馴染みの地でゆくりと過ごしてもらおう事をホームのモットーとして、介護技術を重ねた職員が高い意識を持ってケアに当たっている。入居者は職員に信頼を寄せ、職員も又その思いに日々のケアで応えている。二階ホームからの景色に新たに登場した建造物に「あらなんだから？」と気になる入居者の声に管理者は完成予想図をもらい受け引き伸ばしスピーディな対応で入居者の疑問に答え、窓から見える景色一つも日々、入居者の楽しみ事となっている。入居者の思いは何気ない言葉や行動にある事を職員の介護力で引きあげ家族との墓参にも繋がっている。本年度、地域代表者を中心に自主防災組織の立ち上げに尽力し、古い町並みを残した歴史ある地域や人々を災害から守る体制づくりのスタートとして期待が寄せられている。いつ訪れても変わらぬ雰囲気は家族の安心となり様々な協力が得られ、温かいホーム運営が展開されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が安心して暮らせる環境を提供できるように管理者・スタッフは専門職としての意識を高く持つように心がけています。毎月のミーティングでは常に理念に振り返り意識統一にて支援しています。	「一人一人の入居者が自然体で生活できるようなホーム作り」を主軸とした理念3項目の中に地域の人々とのつながりの重要性を盛り込み、毎月の会議で立ち回り評価をしている。個々の職員が果たすべき職務をしっかりと認識して支援に取り組みながらチームケアに徹している。管理者は法人内の異動により入職した職員に理念について語り、入居者とゆっくりにかかわる様指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・イベント・清掃活動、防災活動(意識)等への積極的に関わりが持てるようになりました。日々の生活においても地域の活性化の為お互いで相乗効果が出るように買い物、図書館の利用等行っています。	ホームは地域の一員として近隣との回覧板のやり取りや清掃活動に参加している。古くから続く夏祭りに全職員が出動してかわり様々な出店を担当しながら入居者と地域の人々との交流を支援し、新たな取り組みとして広報紙を役所やスーパーに配布しホームの啓発を図っている。商店街での買い物や食材の配達、図書館や郵便局等の地域資源の活用は地域の活性化に繋がり、入居者に外出の機会や張りのある生活を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	つつじのさとの事を知って頂く為、広報を作りました。認知症に限らず、何でも相談、見学等来て頂くように促しています。今後も養成があれば認知症他養成講座等も行いたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方からの意見、アドバイス等は大変良い刺激になります。地域交流スペースを皆様へ知って頂き又その活用方法においても色々と案を出して頂いたりしています。	運営推進会議は階下、多機能事業所との合同開催となっており行政や地域代表者、家族が参加している。本年度は三月の大震災に伴い、地域代表者を中心にホームも自主防災組織の立ち上げに尽力している。一回目の訓練が雨で中止になったものの、住民の手で地域を守る体制づくりの第一歩として期待されている。事業所の状況報告を毎回行い外部評価結果についても会の中で伝えている。	推進会議へ職員も輪番で参加する事で会議の主旨や地域との関わりを自らが体験する機会になると考える。併せて議事録の開示方法の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今回は震災に関する事や入居者の受け入れの件等で相談させて頂いています。家族から相談や意向等も話をさせて頂いています。認定更新等の代行及び調査員等とも情報交換を出来る関係づくりを大切にしています。	徒歩圏内に行政機関が集中し、管理者は入居者や権利擁護に関する相談事に直接役所を訪れ助言や資料等による説明を受けている。行政からの運営推進会議への毎回の参加や、認知調査時の職員との立ち合い、包括センター等とのケアマネジャー研修時の場所提供等、地域行政と連携を図りホーム運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人間としての基本的人権及び人間の尊重を基本視点に考えています。夜間の行動心理症状が強く、生命に関わる場合を除き拘束をしないケアを第一にして取り組んでいます。	身体拘束について職員は正しく認識し、言葉使いにも入居者を敬いながら対応している。2階部分に位置するホームは安全上玄関センサーにより入居者や来訪者の出入りを確認しているが、入居者の行動を制限しない自由な生活を見守りながら支援している。管理者は今後法人主催の勉強会等への参加を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様が安心して安らぐことが出来る環境を心がけてます、スタッフとの馴染みの関係は出来ていると思います。ミーティングや勉強会等を通じ知識を深めながら、家族との信頼関係を大切にしているところです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括や県から頂いた資料を用いながら、必要な知識・情報は、皆で得るようにしています。今後は勉強会を開き、理解を深めていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明及び納得をして頂いていますが、時間の経過で気持ちの変化又利用者の身体・精神状態等の変化により話し合いを持ち、本人・家族等が納得しての生活の継続が出来るように機会を作って行きたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へは要望や意向等、家族へはホームでの様子や状況において病院受診や特記の経過記録等の記録を見て頂いたり、電話等により出来るだけ状況を伝えるように心がけています。利用者や家族の気持ちを考えて動くように意識しています。	職員は入居者との日々の関わりの中で意見や要望を聞き取り、地域の夏祭りで花火大会が実現されている。家族の来訪時には入居者の状況や受診内容を報告しながら家族の思いを引き出し、専門医への受診時について相談を受けている。急ぎの場合は電話にてその都度報告を行い家族の安心となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務や毎月のミーティング、全体会議等で職員の意見を確認できるようにしていると思います。普段の生活の中で管理者とスタッフとが話し合いコミュニケーションを大切に方向性を持つようにしています。	管理者は月の会議等の中で職員の意見を収集し、日常的に話を聞き相談事にも応じている。全員でホーム内のコスト削減に取り組み、一覧表にて確認し不必要な物品の購入を避け職員の意識向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	等施設の方針として人事考課を採用してまず、半年に一回、PDCAサイクルを見直すようしています。やる気が持てる職場環境を考え、皆がうるおうと思っています。今後も組織として機能して行くようにしたいです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ其々のスキルに応じて、任せる仕事も変わると思います。まず、笑顔でのケアを行います。施設外研修では、協会の研修を交代で行くようにしています。専門意識を常に考えて働けるように促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月他事業所との交流する機会に出席できるようにしています。お互いで勉強会をする事で意見・情報交換できます。お互いが交流することで信頼関係にもつながると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は大変影響するところだと思います。限られた情報の中で家族の協力を促す。他者の方との関わりではさりげないケアを心がけてます。早く環境に慣れて安心できるように支援する心構えで取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族どちらにおいても入居当初は不安な部分が強いです。家族の方へは出来るだけ協力が欠かせません。信頼関係を築く前提として小まめに連絡を取る姿勢で接しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の情報をスタッフへ提示を行い、利用される方へのケア意識を持つことから始めるようにしています。ホームでの生活の中で色々な資源にも考慮しながら生活の継続を考えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方と同じ目線での会話をし、お互いの信頼関係を大切にしています。要望があれば話をし、出来るだけ希望に添えるように努めます。一人一人の利用者の尊厳を保ち、日々過ごせるように配慮します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態変化時やケアの方向等において電話及び面会時等に伝えるようにしています。相談する姿勢で関わりを大切にしながら、状況によっては家族の方へ経過報告することで信頼関係が出来ていると感じています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方と一緒に過ごす時間を大切にしています。年賀状や兄妹への手紙等の支援しています。お盆や正月又法事等も本人・家族の意向を考えて故郷への帰郷やお墓参り等支援できるよう心がけています。	家族の協力を得ながら入居者の馴染みの人々や場所との関係継続や、趣味の延長を支援している。入居前からの美容室の利用、家族や知人への年賀状や手紙を入居者自身が投函したり、裁縫を得意とされる方へ自宅で使用していた道具を家族に依頼している。職員の気づきにより男性入居者の手を合わせる仕草から家族へ墓参をすすめ実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの食事時の座位位置やレクリエーションの個別ケアの選択等については”そっと見守る”積極的なケアに努めています。楽しく会話ができるよう個別性を考慮、相互性を出せるような雰囲気支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者・家族との信頼関係性は契約終了後も大切に考えています。今後の方向性のお伝いをする事で、本人・家族の支えになれば、ありがたいと思います。何事も相談される関係が保たれれば良いと思っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	精神面、身体面、生活面でのニーズを最優先しています。”ゆとりケア”に努めることで、本人が主体的な生活を楽しめるように支援、家族の協力を得ながら、故郷へ帰郷する事外出、墓参り等が出来ています。	管理者は日頃より職員に対して入居者とゆったりとした気持ちで向き合うよう指導している。個々のニーズを会話や仕草の中から汲み取りプランに反映しながら支援している。入居者の思いを受け、季節の花見や個別の外出、故郷への墓参等へ出かけている。昼食後も席を立つ事なく何気ない会話に入居者と職員の笑い声がリビングに溢れ日々の関わりを知る事が出来る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供、ホームでの様子や家族の情報、スタッフの築き等踏まえ、日々安心して生活できるケアを考えてます。家族との関わりを作る為の家族参加型のイベント行事を試みて自然環境での情報把握に取り組んでます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康及び精神状態の観察を行い、習慣化してしまいがちなケアに最善の注意を払う。生活の変化に気づけば、随時、調整しながら、意見交換して本人が心身共に安定、維持できる生活を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況を日々観察行い、担当及び家族、本人へは意向を取り入れ、個性を大切に、本人や家族の情報を聞き、自信が持てるケアプランを作成します。趣味、意向等聞きながら、時にはビデオ・教材・備品等様々なケア方法を検討しています。	入居者の意向を最優先としたプラン作りを心がけ、家族や担当職員の声を反映させている。定期的なモニタリングで課題毎に評価し、見直しや変更内容を修正し現状に即したプランを全職員で共有しながら支援している。家族の面会時に援助内容を具体的に説明し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録、健康チェック表、排泄チェック表、体重測定表を個別の状況記載、確認する上で活用しています。本人の言葉や家族の意向等は経過記録へ記載、情報交換行い家族への情報提供・交換時に伝えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態等その時々状況により、家族の協力や意向等に応じて支援しています。外出支援や行事は家族の協力して頂くときもあります。特に生活の継続性や状態変化の時はその時々で話し合い等を行いながら様々なニーズにも対応するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベント(飴市・福祉祭り等)には職員より促しながら、参加して頂いています。また、近隣の図書館で、本・DVDを借りたりしています。役割として買い物等、地域と交流する意識で接しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、定期受診行い家族へ安心して頂ける環境を提供、状態変化があれば常に主治医へ報告行い、診て頂いています。状況により、適切な指示連絡を受けて、経過は家族へ伝え、その置かれている状況に対応しています。	入居時にこれまでのかかりつけ医を支援する事と併せ母体医療機関について説明を行っている。緊急時や夜間対応の面から殆どが母体医療機関をかかりつけ医とし、ホームで定期受診を支援し結果について必要時は経過を含め家族へ報告している。他の医療機関に家族が受診同行する際は、法人医師より情報提供を記入してもらい家族へ渡している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察をしっかりと出来るように普段の状況を把握確認出来るように心がけています。併設の看護師に協力お願いし、常に状況を把握しながら、必要に応じて適切な方向性が出せるよう連携を取るようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者急変時や病気等により、病院入院となった場合は、主治医又は医療機関と連携を取り、医療上の対応がスムーズに出来るように支援、又医療関係者との連携を取り調整、主治医に報告を行い、判断して頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の方をケアして行く中で重度化した場合や医療の必要性が強くなった時は主治医・家族・本人・管理者で話し合い、経過を見ながら、家族の意向を踏まえて方向性を出すようになっています。終末期のあり方については今後検討したいと思っています。	現在は重度化した時点で主治医を含め家族と話し合い方向性を決定している。慣れ親しんだホームでの看取りを希望される家族もあり、重度化・終末期支援については今後検討したい意向である。	重度化や終末期支援に対するホームの方針を検討したい意向であり、今後は早い段階から本人・家族の意向の確認や方針について説明が必須と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は連絡対応マニュアルに沿って実践出来るようにしています。夜間はオンコール体制を整え、緊急時のも対応できるようにしています。(各マニュアル及び連絡網活用)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間・夜間想定で各1回避難訓練を行っています。地域の方(区長)参加して頂いています。消化器の操作、消火訓練及び火災報知機の操作方法行っています。今後は地震・水害を想定した訓練を検討して行きます。	年二回総合訓練を含め昼・夜を想定し緊急避難滑り台を使用した訓練を実施している。訓練には区長も参加し、運営推進会議の中でも細かな訓練の様子を写真と共に報告し、今後もアドバイスや協力を依頼している。ホームでは災害対策の備蓄も準備しており、今後は火災以外(地震・風水害)の訓練についても研修や訓練を検討した意向である。	運営推進会議の中でも災害対策について有意義な話し合いが展開されており、今後は自主防災の活動や、区長や地域の方々へ訓練の声かけ等、協力体制の構築に期待したい。又、業務日誌等の中に最終火元確認や定期的な外回り項目を設ける事で職員の意識付けに繋がる事が期待される。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋のドアは閉まっている事を基本に開放する時には理由が第三者にも分かるようにしてます。一人ひとりの気持ちを考えた声かけや支援を心がけ、特に排泄の声かけにはプライバシーへ配慮してます。トイレや入室の際のノックを徹底しています。	入居者の呼称は基本的に苗字とし、排泄時の声かけや誘導もさりげなく、目線での対応を心がけている。家族の面会記録も一人ずつの記入してもらうなどプライバシーに配慮した取り組みである。入室時も声かけやノックをし了解を得てケアに当たっている。統括指導者により尊厳やプライバシーに配慮した支援について日頃より指導が行われ、全職員で日々のケアを振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい声かけ行い、難しい声かけはしないように心がけてます。レクレーションや入居者同士の交流で本人の発語を多く引き出せるようスタッフが間に入りさりげなく働きかけてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの趣味・嗜好・生活ペース等を把握し楽しみを持ちながら、居心地の良い生活が送れるよう支援しています。「～したい」「～行きたい」と自らの希望を大事にし出来る限り希望に添った支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事等で化粧をされ、おしゃれな洋服を選んだりされる方へのお手伝いをさせて頂いたりしています。自分らしさを大切に出来るケアを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のBGMを用いゆったりとした気持ち安らぐ雰囲気を大切にしています。準備や盛り付けのお手伝い、食後の食器・箸の片付けやランチョンマットやテーブル拭き等、役割を持ちながら生活して頂いてます。	入居者の好みも取り入れながら季節感のある献立を作成している。地域の鮮魚・精肉店やパン屋の配達を利用する事で“旬”が提供されている。又、外食(寿司・洋風居酒屋等)支援やおやつ作り(きしめんぜんざい・盆だご・かき氷・焼き芋等)は好評である。下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き等それぞれのできる事を一緒に行い、入居者・職員も専用の箸や湯飲みを持参し、穏やかな音楽の流れる中、会話も弾み笑顔になれる食事時間であった。	彩りよく添えられた生野菜(キャベツ・トマト)の切り方や大きさを入居者の咀嚼に合わせる事で完食され、更に満足な食事時間に繋がると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚や野菜等バランスを考慮又週に1回はパンを食べて頂いています。病歴・便秘、入居始めの方等は、ケア・排泄等へ活かせるように配慮。以前の生活、習慣でコーヒーやお茶等の嗜好品にも個別に取り入れてます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ行い、口腔ケアは大変重要と思っております。利用者も習慣化が出来ており、その方の状態により付添い見守り～声かけ促し等、個別に対応しています。外出後はうがいの励行を実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の自立支援を心がけています。出来るだけパット・リハパンは使用しない方向で排泄チェック時間、行動サイン等ケアを模索しています。夜間でもその人の尊厳を保てるよう下着に近い感覚を大切にしています。	日中は基本的に布の下着に、必要な方は尿取りパットを使用している。自立の方の継続や声かけの必用な方も、仕草を察知しさりげない誘導をおこなっている。トイレ内は使用後の確認を行い清潔に保ち、気持ち良い排泄に繋げている。夜間も布やリハビリパンツ、ポータブル使用など個々に応じ支援し、ポータブルの使用後は洗浄や日光干しが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事・水分補給を心がけています。日常生活の中でも出来るだけ離れたトイレを使用して歩行(蠕動運動)する機会を作っています。便秘傾向方へは特に繊維物の摂取を実践しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴(月・水・金)が基本ですが利用者の希望又は必要性があれば随時調整入浴支援してます。入浴日は好きな衣類・タオル等を選んで頂き又お茶風呂やゆず・菖蒲湯・バスクリン等楽しんで頂いています。	基本的には週3回の入浴を行っているが、希望や必要(夏場・皮膚疾患時や失禁時など)に応じシャワー浴や足浴も含め随時支援している。浴室や脱衣所は整頓や清潔に努め、入り口の暖簾や一人ひとりの脱衣籠の準備、季節風呂や入浴剤の使用など楽しみとなる入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の中で、本人のペースにも配慮、ゆっくり休んで頂く時間には気を遣うようにしています。昼食後等は自室のベットやリビングソファ等各自で思い思い自分の時間を過ぎて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ皆、処方箋を確認して、薬の用途、起りえる副作用には経過確認をしながら、服薬支援しています。利用者によっては作用が強く出る方等がいらっしゃる為、状況により、主治医へ報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームで過ごす時間が多い為、役割ある生活を支援しています。新聞取り、ゴミ出し、掃除、食器拭き、家事又ドライブ希望、絵画、短歌、歌、カラオケ、読書等の趣味・余暇等へはスタッフ皆配慮、大事にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月毎に行事担当を作りスタッフ各自が責任を持って、利用者の普段の生活や意向・要望又家族から情報も踏まえながら、管理者とともに計画。季節感を肌で感じ、外気浴・気分転換を兼ねる外出を心がけています。	ホーム近隣の商店街やスーパーへの買い物・図書館の利用は入居者の希望や体調に配慮しながら日常的に支援している。又、月毎の行事担当者により花見(桜・つつじ・コスモス等)や鯉のぼり見学・ぶどう狩り・阿蘇ドライブなど季節を味わう外出が実施されている事が記録からも確認された。又、地域の地蔵祭りに出かけた時、家族と一緒に“からいもフェスタ”にも参加している。今後も入居者の笑顔に繋がる外出支援に努める意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は預かり金として管理させて頂いています。本人が必要とする物や日用品等は家族・本人に随時確認しています。病院受診や外出先でお金のことで心配されないよう安心される声かけに配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との関わりを大切にしています。利用者の要望又家族からの要望があれば電話や手紙の支援は欠かせません。手紙や絵ハガキの支援では本人と一緒にポストに投函するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明には暖色を用い、木の温かみを感じられる作りで最適な空間が提供出来ています。皆が集うリビングでは様々な環境要因に配慮して、居心地の良い空間づくりを行っています。換気は定期的に行い配慮しています。	建物一階の玄関先には木製のホーム看板や椅子が設置されている。ホーム内も季節の花や植物・飾物、入居者の作品(習字・俳句など)が掲示されている。休憩スペースにも利用される畳の間、ソファやテーブルの配置、流れる音楽や室温・換気へも十分配慮し入居者がゆっくり過ごせる空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎食後(特に昼食後)はゆっくりして頂く時間としています。食事テーブルやリビングソファ等では利用者の馴染みの場所があります。自由に過ごせる時間を大切にしながら皆との触れ合い関わりも保つようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にはコルクボードや写真立てへの写真、各自入居後からの写真・ホームからの賞状を本人・家族等に見て頂けるようアルバムへ綴じてます。置き時計等は見当が付くよう家族へ協力して頂き促しを行っています。	家族に時計をはじめ馴染みの品の持ち込みを依頼し、掲示できるものはホームで準備したボードにバランスよく添付されている。又、入居後の写真等を思い出アルバムにし、家族の来訪時に居室で楽しんでもらうなど職員の細やかな取り組みである。家族の思いが詰まった居室で寛がれる入居者の表情から居心地の良さが感じ取れる。	居室前のベランダは避難用滑り台にも続いており、使用しないプランター等の保管場所を検討する事で、安全面や居室からの眺めの良さにも繋がると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーの作りで歩行(杖)、歩行器、車椅子等が安全に移動出来る環境にあります。見守り・付添い利用者が安全に自立(自律)した生活を送る為の支援を最優先に考えケアを行っています。		